

# JICS REPORT

【ジックス・レポート】

財団法人 日本国際協力システム

2008

Jan.

No. 67

2008年1月25日【編集発行人：櫻田 幸久】  
発行：（財）日本国際協力システム  
〒162-0067 東京都新宿区富久町10番5号 新宿EASTビル  
Tel 03-5369-6960 / Fax 03-5369-6961  
E-mail: jics@jics.or.jp / http://www.jics.or.jp

## 特集

### イラク支援とJICS

# 困難を乗り越え一歩ずつ

いまだに治安が不安定なイラク。多くの人々がテロなどで傷ついたり、大切な人を亡くしています。そんな状況を伝えるテレビニュースで警察車両や救急車が映し出され、そこに日の丸を目にすることがあります。日本の緊急無償資金協力でJICSが調達した車両です。困難を乗り越えて納入にこぎつけた車の活躍はうれしいものですが、頻繁に利用される厳しいイラクの現実に悲しさも感じる、そんな複雑な思いを抱きながら、イラク担当スタッフはイラク復興を思い、一つひとつの支援業務に取り組んでいます。

2003年10月、日本はイラク復興支援に対し総額15億ドルの無償資金協力を表明しました。イラク全土を対象に、電力、医療、衛生、治安などイラク国民の生活基盤の再建・改善に重点を置く支援です。

この無償資金協力には、イラクへの二国間支援、国際機関を通じた支援などが含まれていますが、JICSはこのうち二国間の直接支援分(8億ドル相当)について、イラク政府の調達代理機関として資金管理とプロジェクト監理を担っています。2004年にイラク側への機材引渡しを完了した「警察車両供与計画」を皮切りに、機材調達9件と施設リハビリ11件、平和構築無償1件の調達業務・資金管理を実施しています。機材調達案件と平和構築無償案件はすべて、当初計画分の機材引渡しとサービス提供が完了しており、2007年度は主に追加調達分に関する業務を行いました。施設リハビリでは、2006年に「移動変電設備整備計画」、2007年に「北部地域主要病院整備計画」「中部主要病院整備計画」「タジ・ガスタービン発電所復旧計画」で当初計画された設備を据付完了し、その他の7件についてもイラクへの機材搬入と現地プロジェクトサイトでの据付・工事作業を進めています。

## 【イラク支援の特徴】

イラク支援では、安全上の観点から、「日本人は現地に入れない」という大きな制約を受けています。JICSはイラク復興支援の“前線拠点”として当

## CONTENTS

P.1-5 **【特集】**  
イラク支援とJICS  
困難を乗り越え一歩ずつ

主要病院整備計画  
サマーワ大型発電所建設計画

P.6-7 **【TOPICS】**  
有償資金協力  
円借款事業へのさらなる貢献

P.7 **【NGO紹介】**  
日本チェルノブイリ連帯基金  
医師研修と医薬品の支援

P.8 **【JICSのうごき】**  
イラク大使来訪  
グローバルフェスタ  
JAPAN2007に出展  
津波復興支援  
理事長がインドネシアを訪問

P.8 **【在外勤務者リレーエッセイ】**  
新たな研修でチームが再び一体に  
カンボジア・包括的小型武器対策  
プログラム(JSAC)プログラムマネージャー  
竹内 和樹

P.8 **【お知らせ】**  
JICS年報2006発行



供与された手術機器

初、ヨルダンの首都アンマンにJICS事務所を設置し、進捗管理、入札監視、関係機関との連絡・調整にあたってきました。また、イラク国内では、英国の調達機関クラウン・エージェンツ(CA)とパートナーシップ契約を締結して、バグダッドにJICS-CA事務所、バスラに連絡員事務所を設置し、イラク政府との連絡・調整体制を確保しながら、迅速で機動的な活動を行っています。

イラク向けプロジェクトの最大の特徴は、国内の治安がまだ安定していないなかで、予測不可能な事態にも対応できる調達方法を確保しなければならないことにあります。そのため以下のような手段を講じています。

## 1. 安全確保のための警護と保険の付保

プロジェクト関係者や援助物資の安全を確保するため、物資輸送時とサイトでの据付作業時に警護チームを配置しています。また、援助物資の損失や損害を補填するため、特殊な保険を付保しています。

## 2. 内陸輸送モニタリング

ほとんどの機材は、国境からイラク国内の納入サイトまで陸路で輸送されます。この間、テロ攻撃に遭遇する可能性が少なからずあります。調達した機材が納入サイトに確実に届いたことを確認するため、JICSでは輸送トラックに警備チームを付け、イラク国内に入ってから納入サイトに到着するまで、援助貨物の位置情報などを定期的に確認し、事件、事故が発生した場合でも、即座に対応できるよう、24時間体制で輸送状況のモニタリングを実施しています。

……

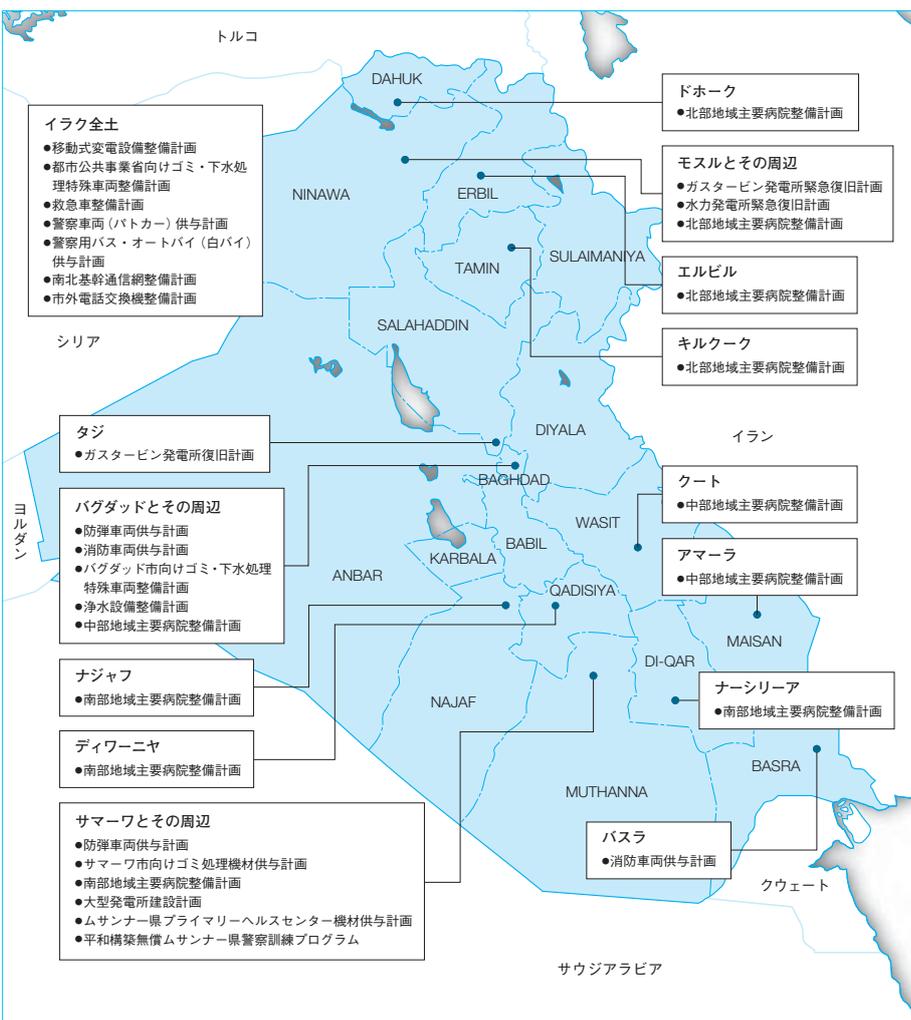
JICSはこのように多分野にわたる案件を実施してきましたが、今回ではそのうち2つに焦点をあてて紹介します。

### 【主要病院整備計画】

## 地域拠点として診療増加

イラクでは1986年以降新たな病院は開設されていません。その一方で、人

## ● イラクへの復興支援—JICSが携わっている案件



口増加による医療サービスの需要増加にもかかわらず、1990年からの経済封鎖による消耗品、医療機械部品の入手困難、技術者不足による病院設備・機材の老朽化が進みました。さらに、イラク戦争後の治安悪化から多くのクリニックが閉鎖され、公立病院の医療サービスの需要がますます増加しており、イラクでは既存医療施設の整備が緊急課題の一つとなっています。

そこで日本の緊急無償資金を使って、北部、中部、南部の主要病院の整備が進められました。過去に日本により建設され、医療機器が整備された各地域の中核を担う11病院を対象に、一般設備(給排水設備、空調設備、電気設備)の改修と、医療活動の改善のための医療設備(医療ガス設備など)、医療器材(検査部手術室、中央材料室、産婦人科、集中治療室、乳幼児集中治療室など)を供与す

るといふものです。

北部地域は2007年5月20日に全4病院の機材据付を完了。残余金による追加支援の詳細を設計中です。中部地域も2007年6月5日に全病院への機材据付を完了し、残余金による追加調達を検討中です。南部地域は、2006年11月9日に3病院について機材据付を完了、ナジャフ病院については、実施に向けた手続き中で、2009年3月に完工予定です。

各病院は、各市の市民病院として機能するとともに、州全体を対象とした州病院としての役割も果たしています。そのため対象人口は、北部4病院が約554万人(イラク人口の約20%)、中部3病院が約368万人(約14%)、南部4病院が約300万人(約11%)にものぼります。

北部地域で、プロジェクト実施設計開始直後の2005年2月と完了後の2007年7月に診療実績を調査したところ、外来患



整備された病院での手術

者数は1.5～2倍に増加しました。他の地域の病院も軒並み診療件数が増加しています。完了間もないデータであり、今後さらなる診療実績の増加が期待されます。またイラク全体の医師数は2003年と比べ半減しているのに対し、このプロジェクトで整備された病院では逆に増加しています。日本の援助で施設・設備などが整備されたことにより、地域の重要な拠点病院になったためと判断されます。治安の問題などから多くのクリニックが閉鎖されているなかで、患者や医療関係者にとって、欠かせない重要な存在として機能しています。



X線診断装置のトレーニング

### 【サマーワ大型発電所建設計画】

## 電力の安定供給のために

イラクでは電力供給の改善も喫緊の課題であり、それは日本のイラク復興支援の重点地域であるサマーワ市を含むムサンナー県でも同様です。ムサンナ

ー県の電力需要は200メガワットといわれていますが、県内には発電所がなく他県からの電力供給に依存しています。一方で、県外から供給されている電力も1日当たり40～50メガワットに過ぎず、日に10～14時間の停電が恒常的に続いていたため、県内に発電所を建設し、安定で継続した電力供給が切望されていました。そのため、イラク電力省は日本に対して、サマーワの製油所から生産される軽油を燃料として、総出力60メガワットのディーゼル発電所の建設を要請しました。イラク側から3カ所の建設予定地が提示され、その中で既設のサマーワ変電所に隣接する候補地をプロジェクトサイトに決定しました。



建設予定地

すでに緊急無償1号案件として完了した移動式変電設備の据付完工式も兼ねて、サマーワ大型発電所の建設プロジェクトの実施開始にあたり、2006年3月28日、建設予定地で、事業の開始式が行われました。ムハンマド・アリー・ハッサーニ・ムサンナー県知事をはじめとしたイラク側実施機関の関係者と、日本からは外務省サマーワ事務所と陸上



鍍入れ式

## From the site

### 生活環境の改善は市民の不満を減らす

主要病院整備計画については何度か地元新聞、テレビなどで取り上げられており、保健大臣からJICSへ感謝状もいただきました。電力事情が依然改善されていないイラクでは各病院で停電が頻発していますが、供与された非常電源装置のおかげで停電中も診療活動に支障がなくなりました。また気温が45度を超える真夏時も、空調機の作動により快適な診療環境が確保されたことで、病院関係者や患者から深く感謝されています。

JICSが調達した警察車両、消防車、救急車などの現地での活動はたびたびCNNやBBCなどのニュース写真で見ることができます。現地の混乱は依然続いており、なかなか直接一般市民からの声は聞けない状況ですが、こうした写真などから治安維持活動に貢献している様子がうかがえます。また、その車両は、イラクがこれまで使用していた欧米メーカーより比較的小型のものを選定しています。このため、狭い道にも進入でき、救急患者を搬送したり、ゴミを回収することができます。また、道路の中空に張りめぐらされた電線を傷めたり、切断することなく通行しています。このような日本の細やかな心配りが現地では評価されています。

そして都市・公共事業省からは、2007年9月に、こんな言葉をいただきました。

「機材の老朽化によるゴミ収集の効率が低下し、衛生事情の悪化から特に若年層への感染症拡大が危惧されていました。街に山積みとなった腐ったゴミがネズミや蚊などの病原菌媒介生物やヘビ、サソリなどの害虫を増殖させ、健康被害は深刻でした。日本からのゴミ収集機材の供与により、一般市民の生活環境は目に見えて改善しました。特に一般市民の不満を軽減することは、過激派集団の活動を抑えることにもなり、イラク復興事業全体でも、この供与の意味するところは大きいです」



日本による病院整備を報道するテレビニュース

自衛隊関係者が出席しました。

治安が安定していないプロジェクトサイトでの作業員の安全のため、最初に、予定地の安全確認調査とともにサイトを防御するための警護施設の建設を行いました。サイトでは警備員を配置したうえで、イラク軍・警察とも連携をとりながら、安全確保に最善の注意を払っています。

タンクヤードの基礎掘削工事は2007年10月5日に終了し、その後、基礎工事を実施。また、同時に発電所建屋、管理事務所棟と宿直棟の基礎工事も併せて実施されました。



タンクヤードの基礎工事

治安の悪化により作業が制限されるなか、安全を確保しつつ現場工事が進められ、各種燃料タンク類、発電所建屋外の排ガスダクトと支持架台、エンジン機械補機設備、燃料浄化装置、発電所建屋、管理事務所棟、宿直棟の設置は2007年8月までに完了しました。引き続き、送電鉄塔など残りの工事が行われています。



タンクヤードの建設

現場作業の進捗状況に合わせて、プロジェクトサイトへの機材・設備の搬入が2007年1月から開始され、30回を超える警護付輸送（輸送コンボイ）が行われました。その際には、現地の治安状況に応じて、輸送には警備要員が随行し、機材とドライバーなどのプロジェクト関係者の



320トンのディーゼルエンジンの輸送

安全を確保しました。

設備の中には300トンを超えるディーゼルエンジンも含まれ、トルコから特殊輸送トレーラーを手配したうえで、送電線や橋梁など貨物輸送時に障害となるものについて事前にイラク当局と調整しながら、2007年12月までに輸送を実施しました。

機材・設備は、プロジェクトサイトへの搬入後、2008年1月までに設置され、その後、3カ月間の運転テストを経てイラク電力省に引き渡されます。

完成は2008年4月の見込みです。これにより1日当たり60メガワットの電力供給が可能となり、約2万世帯に安定した

● JIICSがイラク政府の調達代理機関として携わった案件

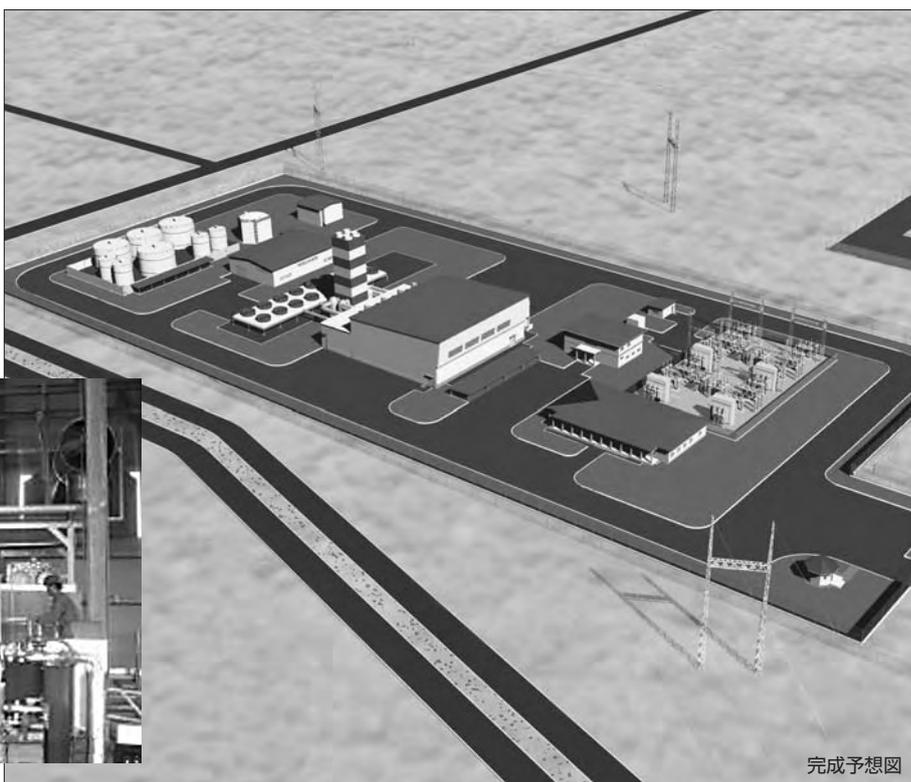
	案件名	日本からの供与額
緊急無償（機材調達案件）	警察車両供与計画	31.0 億円
	消防車両供与計画	21.9 億円
	防弾車両供与計画	5.9 億円
	警察用バス・オートバイ供与計画	26.2 億円
	救急車整備計画	58.3 億円
	バグダッド市向けゴミ・下水処理特殊車両整備計画	26.2 億円
	都市公共事業省向けゴミ・下水処理特殊車両整備計画	36.4 億円
	サマーワ市向けゴミ処理機材供与計画	6.6 億円
	ムサンナー県プライマリーヘルスセンター機材供与計画	8.7 億円
緊急無償（施設リハビリ案件）	移動式変電設備整備計画	79.4 億円
	モスル水力発電所緊急復旧計画	56.8 億円
	モスル・ガスタービン発電所緊急復旧計画	45.9 億円
	タジ・ガスタービン発電所緊急復旧計画	72.8 億円
	サマーワ大型発電所建設計画	127.0 億円
	南北基幹通信網整備計画	71.5 億円
	市外電話交換機整備計画	36.0 億円
	浄水設備整備計画	60.7 億円
	南部地域主要病院整備計画	55.6 億円
	北部地域主要病院整備計画	75.3 億円
中部地域主要病院整備計画	50.4 億円	
平和構築無償	ムサンナー県警察訓練プログラム	3.8 億円
合計		956.5 億円

十分な電気を供給することができます。これは人口13～25万人といわれるサマーワ市全域をカバーできる電力量に相当します。

電力の安定した供給により、今後のムサンナー県の県都であるサマーワとムサンナー県全体の産業開発と住民の生活環境の向上に貢献することが期待されています。



機械補機設備の設置作業



完成予想図

## …担当者の声…

### 犠牲は出さない!

#### 緊急無償「救急車整備計画」の内陸輸送

JICSはイラク国内の援助物資の内陸輸送中は24時間体制でモニタリングを行っています。2006年10月某日、内陸輸送のモニタリング中に、現地の治安状況の悪化を知らせる1本の緊急電話が入りました。情報収集に追われるなか、何が起きて



おかしくないイラク案件の怖さを実感しました。そして、「輸送中に犠牲は出さない」という強い信念をもち、東京のオフィスにいても、最大限の神経と想像力を働かせ、現場での危険性をくみ上げていかなければならないという、案件担当としての自分の立場を再確認しました。

それからも予期せぬトラブルは発生します。そのたびに、「調達代理機関のJICSには何が求められ、何ができるのか」、すべての選択肢に異なるリスクがあるときに、「どのリスクを避けるべきか」を自問し続け、チームの上司たちと議論を重ねました。「正解」がないなかで、ベストと信じた選択が正解となるように、手探りで動く日々でした。

2007年2月、ようやく関係者の努力が実り、42回に及ぶ輸送によって、700台すべての救急車のイラク保健省への引渡しが終了し、イラク全土に救急車が配置されました。今でも時折、現地からのテレビ報道で納入した救急車を見かけると、「イラクの人々のために役立ってね!」と心の中でエールを送っています。

(田中小鈴職員)

### みんなで難局を乗り切る

#### タジ・ガスタービン発電所復旧計画

タジ・ガスタービン発電所復旧計画は、施設リハビリ案件のひとつで、バグダッドの北西部約20キロにあるタジ・ガスタービン発電所の老朽化が激しい発電設備を復旧し、発電能力の向上をめざすというものです。

この発電所は首都バグダッドの民家や公共施設へ電力を供給し、人々の生活を支える重要な役割を担っています。バグダッドの人口は約500万人、そのうち約20万人(約3万8千世帯)が対象となります。

しかし発電所のあるタジ周辺は、自爆テロや武力衝突、誘拐殺人事件などが多発し、イラクの中でも非常に危険な地域といわれており、また、100トンを超える超重量貨物の輸送や発電所での据付作業は想像を絶する困難を伴うものです。

実際に案件の続行も危ぶまれるような、いくつかの大きな困難にも直面しました。そのたびに関係者が集まり、膝を突き合わせて協議を行ないながら、難局を乗り切りました。



決して忘れることのできない、メーカーの工場で研修中のイラク人発電所技術者の皆さんの真剣なまなざしと、人々に電力を届けたいというまっすぐな思いを胸に、関係者の皆さんと一丸となって引き続き頑張ります。

(藤崎整雄職員)

有償資金協力

円借款事業へのさらなる貢献

JICSは従来、無償資金協力と技術協力に関する業務を中心に事業を展開してきました。しかし、近年では、日本のODAの最も大きなシェアを占める、有償資金協力(円借款)の業務も行うようになっていきました。2008年のJICAと国際協力銀行(JBIC)統合を視野に入れ、JICSは、今後もさらに積極的に円借款事業にも貢献できるよう、努力しています。

今回は、JICSが今まで行っているJBIC関連業務についてご紹介します。

—— 有償資金協力とJICSのかかわり

有償資金協力は、日本政府と相手国政府との合意のもとに、JBICが借入国に対して、低金利かつ長期の開発資金の貸し付けを行うものです。プロジェクトの実施主体である借入国は、この資金を使って、電力、ガス、運輸、通信などの経済・社会基盤を整備しますが、借入国がこれらの事業を行うには、JBICの定める調達ガイドライン、コンサルタント雇用ガイドラインなどに基づいた調達手続きに沿って、必要な物資や役務を調達しなければなりません。

JICSは、2004年度より、借入国が作成する調達関連書類の内容が、JBICのガイドラインなどに準拠しているか否



ルーマニアの調達セミナーでJICS職員の話に聞き入る参加者

かを確認する作業(一次チェック業務)をJBICから受託し実施しています。

また、JBICは、借入国の政府や実施機関が、調達手続きに関する理解を促進するために、さまざまな国で円借款セミナーと調達セミナーを実施しています。2006年度にはインド、エジプト、ルーマニア、ペルーでの調達セミナーにJICS職員が講師として参加しました。調達セミナーでは、調達関連書類の一次チェック業務を通じて蓄積した経験・知見のもとに、借入国側の関係者に対して、書類を作成するうえで間違いやすい点などをフィードバック

しつつ、書類の作成指導を行ってきました。

—— 円借款プロジェクトの案件監理

JBICは、円借款事業のいっそうの迅速化を大きな課題として位置づけており、なかでも先方実施機関が行うコンサルタント選定手続きなど、調達実施の初期プロセスの迅速化にも重点を置いています。そして2007年度より、コンサルタント選定の手続きを円滑に進めることに重点を置いた支援を行う「案件監理専門家に関する委託調査」を外部委託しています。

JICSとして受託した第1号が、「インドネシア共和国：案件監理専門家に関する委託調査」です。この業務は、インドネシアの3件の円借款プロジェクトに関して、事業実施に必要な手続き(主にコンサルタント選定の手続き)を円滑に進めるために、先方実施機関に対する支援を行うものです。



ルーマニアの調達セミナーで講師として話をするJICS職員(右)

具体的な業務としては、コンサルタント選定手続きに必要な調達関連書類の作成やJBICと先方実施機関の間で結ばれた借款契約の発効手続きの支援です。

この調査ではコンサルタント雇用ガイドラインを始めとするJBICの調達手続きに関する深い理解はもとより、円滑にプロジェクトを推進させるために、実施機関や関係機関との間の調整能力が担当する専門家に求められています。

JICSは前述の一次チェック業務において、調達関連書類のガイドライン準拠性に関わる審査の知見を蓄積しています。また、JICSは無償資金協力関連事業で先方政府関係者との交渉について豊富



モルディブで書類の作成指導をするJICS職員（右）

な経験を有しているため、これらのノウハウを活用し、JBICの期待に応えられるよう努力しています。

今後も、同種の調査にさらに幅広く対応できるよう、今回の経験の組織内における共有化に努めていきたいと考えています。

### 円借款の実施の流れ



④⑤が「案件監理専門家に関する委託調査」の主要な業務。

## 【NGO紹介】

JICSは、1999年度より「NGO支援事業」を実施しています。この事業は、官民一体の国際協力活動の一層の発展に貢献することをめざし、開発途上国において援助活動を行う日本のNGOを支援するものです。このコーナーでは、これまでに支援した団体から、事業実施状況について報告していただきます。

## 医師研修と医薬品の支援

### 【日本チェルノブイリ連帯基金】

鉛とコンクリートで固められたチェルノブイリ原子力発電所4号炉を、ウクライナのジャーナリストたちは「石棺」と呼びました。そして2003年に3号炉の火が消え、石棺の修復工事が問題となりました。欧州、米国、日本からも莫大な資金が拠出されています。

修復工事はどうなっているのでしょうか。2007年10月、5年ぶりにチェルノブイリを訪れました。北と西側の壁が鉄骨で補強されていました。以前から壁の隙間から放射能が漏れていると報道されていましたが、隙間の問題以上に、壁はいつ壊れてもおかしくなかったのです。日本の原発も、老朽化が問題になってきています。

JICS支援実施年度：2001年度、2002年度  
対象国：ベラルーシ

#### 支援対象プロジェクト内容

日本で医療機材（中古品）を調達し、点検整備を行い供与することで、現地医師による高度な治療をめざす（2001年度）。機材に不足する部品を贈り、放射線と小児癌の関連を究明し、出産医療の改善活動を実施する（2002年度）。

1986年4月に起こった、ウクライナのチェルノブイリ原子力発電所4号炉の大爆発事故は、けっして遠い国のこと、私たちに関係ないことではありません。大気に飛び散った放射性物質は広島型原爆の500倍といわれています。風に乗って北半球を覆い、特に隣国ベラルーシは、国土の30%が半永久的に汚染の大地になってしまいました。

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）は、1991年に「チェルノブイリの子どもたちを救おう」と設立されました。放射性ヨウ素が、何も知らずに外で遊んでいた成長期の子どもたちの甲状腺を蝕み、小児甲状腺癌が急増しました。

そこで、医療の遅れていたベラルーシの病院に薬、検査機器、外科手術機材を支援しました。日本から専門医を派遣して、現地医師とともに検診や治療事業を行いました。さらに医師を日本に呼んで、新しい知識や技術を身につける研修を行ってきました。これまで16年間に87回訪問団を派遣し、10億6000万円以上の医薬品を贈



現在の「石棺」4号炉

りました。近年では46歳以上の大人に甲状腺癌が増え、事故当時の子どもが出産適齢期を迎えて、汚染地での出産に不安もっています。

事故から21年経ちますが、放射線リスクは消えることがありません。継続的な医療協力と交流活動を行っていかうと思います。

#### 日本チェルノブイリ連帯基金

1991年からチェルノブイリの放射能被災地へ医薬品・検査試薬の供与、医師・看護師の派遣、スタディツアーなどを行う。2004年からは日本イラク医療支援ネットワークの構成団体として、イラクでも小児白血病の抗癌剤・抗生物質の供与、専門医派遣、難民キャンプの健康診断などを行っている。



## リレーエッセイ No.9

### 新たな研修で チームが再び一体に

竹内 和樹

(カンボジア・包括的小型武器対策プログラム(JSAC)  
プログラムマネージャー)

すべてのプロジェクトが最終フェーズに入り、プログラムが近く終了することをスタッフが察知し、次々と事務所を辞めていった時期がありました。予期していたこととはいえ、少なからずショックを受けました。説得に応じて何人かが、事務所の閉鎖まで働くことを約束してくれたものの、将来への不安と業務のプレッシャーで、事務所の雰囲気がギクシャクし始めました。

「みんな、プロジェクトマネジメント理論に興味あるかな。これまでの経験をマネジメント体系として整理できるし、将来にも生かせると思うよ」

このような問いかけに対するスタッフの反応は思いのほか前向きで、全員参加で研修を始めることになりました。

そこで、PMBOK(プロジェクトマネジメント知識体系ガイド)に沿い、概念と管理手法を解説しました。スタッフの知識吸収意欲も意外でした。週に2回、就業後に開催する2時間の講義を熱心に聞き、積極的に質問もします。ディスカッションはチームに一体感を与え、次第に業務に対する積極性と自発性が増しました。

事務所の雰囲気が改善し始めたころ、幸運にも、これまでの私たちの活動が、カンボジア政府から評価されました。スタッフ全員に、国家警察長官からの感謝状や政府から勲章が贈られたのです。士気はさらに上がりました。

彼らに何か残したいという思いから始めた研修が、思わぬ効果を生みました。これこそがチーム育成です。多忙にかまけて十分に行えなかったスタッフのトレーニングが、危機を境に充実し、政府からの褒賞が加わることにより、チームが活性化しました。

私たちの活動は、まだ終わっていません。そしてチーム育成はプログラム終了まで続きます。



プロジェクトマネジメントの講義

## JICSの うごき

### イラク大使来訪

2007年10月18日、ガーニム・アルワン・アルジュマイリ在日イラク大使がJICSを来訪し、佐々木理事長と会談、大使から、イラクに対する日本の復興支援とJICSの業務に対する感謝の意が表されました。さらにイラクの現状や現在進行中の案件に関する意見を交換し、今後の復興支援の円滑な実施をめざして力をあわせていくことを約束しました。



大使(中央)、ジャセム・アルジャナビ外交官(右)と理事長

### グローバルフェスタJAPAN2007に出展

JICSは、2007年10月6日、7日の2日間、日比谷公園で開催されたグローバルフェスタJAPAN 2007に出展しました。JICSブースでは組織紹介、そして感染症対策支援無償とカンボジア地雷除去機材研究開発支援無償の紹介を行いました。来訪者からは、カンボジア地雷除去に関して展示した、除去時に使われる防護服と防護ヘルメットや、探知機の研究開発に使用する模擬地雷

などに大きな関心が寄せられました。



参加者が集ったJICSブース

### 津波復興支援

### 理事長がインドネシアを訪問

2007年11月6日から11日まで、佐々木理事長がインドネシア・ニース島グモンシトリ病院フェーズ3の起工式に出席しました。この病院は、2004年12月26日のスマトラ沖大地震・インド洋津波、2005年3月28日のニース地震で大きな被害を被り、地域の中核病院として機能を発揮できない状況でした。そのため復興計画に各国の支援が集まり、日本もその一翼を担い、フェーズ3を担当することになりました。

理事長は他の支援機関側出席者とともに、インドネシア政府から記念のジ

ャケットと記念メダルの贈呈を受け、建設中の記念碑にインドネシア政府関係者とともに署名を行いました。



式典の出席者

## お知らせ

### JICS年報2006発行

2007年10月31日に「日本国際協力システム年報 2006」の日本語版を、また12月28日に英語版を発行しました。

特集「多様化する国際協力のニーズにこたえて」では、JICSが新たに取り組んだ防災・災害復興支

援無償、コミュニティ開発支援無償、国際機関から受託したASEAN鳥インフルエンザ対策支援を紹介しています。

年報PDFデータはホームページからご覧いただけます。

